2012年(平成24年)

http://ashitaban.net/

会話が生まれるポスター作り

〜三宅島ポスタープロジェクト〜

制作のライブだ。 方と見て、話合いながらその場で参加 宅島ポスタープロジェクト」が開催さ ていく。この講座はいわば、ポスター 者の方々と一緒にポスターを作りあげ に、民宿「三宅島バーディ」へ取材に伺っ れた。加藤文俊研究室の学生は十四日 た。その時の写真やノートを受講者の 九月十六日、三宅島大学本校舎で「三

た

あ

月曜日

ば

とっても、そして加藤文俊研究室にとっ のか、緊張しながら講座は開始した。 れた時間内で完成させることができる は、悩み考える時間が多いため、限ら に近づけていくポスター制作の過程で 島のこどもたちを取材対象に制作され のポスターは、民宿で働く女将さんや ても初めての試みであった。三宅島で てきた。何度も試行錯誤する中で完成 参加者された方たちからは、当初想

2012年(平成24年)

れるメッセージには、女将さんを表現

聞くことが出来た。特にポスターにい

像していた以上に、たくさんの意見を

今回のポスター講座は三宅島大学に

9月17日

する様々なアイデアが出てきて、どの とが出来て、楽しかった。」という嬉 講座を終えて、「普段見るだけだった るポスターが講座時間中に完成した。 しい感想も頂けた。 ポスターの作り方を実際に体験するこ し合った。そうして、全員が納得でき 言葉にするかPCの画面を見ながら話



さんに渡しに伺いたかった。しかし講 スを、最後までやり遂げることが出来 に直接ポスターを手渡すまでのプロセ 中ご協力を頂いたおかげで、女将さん させて頂いている役所が閉まっている ポスタープロジェクトと同じようにそ 義が行われたのは日曜日。いつも印刷 の日のうちに印刷をし、取材先の女将 出来上がったポスターは、 今までの

られた人、そしてそれを見た人たちと 作りあげる過程での話し合い。そして うちいさなメディアを通してコミュニ らす人のことを知りたくなる。 たくさん島のこと、そしてこの島で暮 の間で生まれる会話。普段この島で生 出来上がったポスターを作った人、作 改めて実感した。ポスター取材を通し コミュニケーションを通じて、もっと にとって、このポスターから生まれる 活していない「よそ者」である私たち ての女将さんとの会話や、ポスターを ケーションが生まれることの楽しさを 今回の講義を通じて、ポスターとい

も女将さん、そしてたくさんの島の からようやく一年が経った。これから スタープロジェクトも、制作を始めて 昨年の台風直後に開始した三宅島ポ

> と一枚一枚、ポスターを作り続けてい 人々との会話の手段として、じっくり 絢

号

キッズリサーチを 振り返る

キッズリサーチとは、八月十八日~二 サーチを振りかえる」講座が行われた。 夏休みが終わって間もない九月十五 加藤文俊研究室による「キッズリ

寄ってきた姿が印象的だった。 学生の顔をみた瞬間に元気よく駆け もたちもおり、久しぶりに再会した大 学の校舎である御蔵島会館に来る子ど 座である。 の日は集合時間の十時前から三宅島大 究室がお互いに島について学び合う講 十六日に行われた、小中学生と加藤研 夏休みの活動の成果もあってか、こ

勢十一名の方が校舎を訪れた。 どもたちから保護者、大人の方まで総 リサーチ中の様子をまとめた冊子を見 この日はリサーチに参加してくれた子 DVDを上映するというものであり りしながら、期間中の様子をまとめた たり、子どもたちと一緒に読み上げた 藤先生によるお話から始まり、キッズ 今回の講座で行った主な内容は、

どもたちを見て、加藤研究室のメン み上げる際に恥ずかしがる他のメン うな気持ちになった。まとめ冊子を読 ーはまるで三週間前に戻ったかのよ 講座開始直後から元気いっぱいの子

げる等、講座は終始和気あいあいとし 分の映った場面になった時には声をあ バーに声をかけたり、DVD鑑賞で自

する姿もちらほら見られた。 講座の最後には、大きな白い紙に来

載せて抱きかかえながら話を聞いたり おしゃべりしたり、子どもを膝の上に た様子で進んだ。中には子どもたちと

ちがカメラで撮った島の風景も、大人 どもたちの発想力、表現力の豊かさに 視点からでは決して見えない世界が映 は驚かされる。DVDの中の子どもた に描いたスケッチもそうだったが、子 描いた。振り返りのキッズリサーチ中 を皆で行い、画用紙に思い思いの絵を 年の三宅島で行いたいことのスケッチ し出されていた。

どちらも先生であるということを改め およそ二時間の講座を終えた受講生と て実感した。 子どもたちと自分達、どちらも生徒、

の笑顔でしばしの別れを惜しんだ。 に浸りつつ再開を願い、溢れんばかり 加藤研究室のメンバーは、一夏の余韻

(長冨 将成



置する場所に在る疫病除けの塔であ 業に参加して下さった女性の近所に位 の境目に立つ「大機和尚」。これは授 ルートには記されていない地区と地区

講師のスザンネさんが展望台下

くれる話だ。観光マップや通常の案内

人ひとりの目線で

三本岳、 それによって飛んだ大きな石が意図的 根島は土地として薄く平べったいため 落雷事故が問題になっていることを知 運よくとても晴れていたため、御蔵島、 まずは七島展望台へ向かった。今日は 学校舎 (御蔵島会館)をバスで出発し、 をあるく・人に出会う・島を考える リーンさん (ドイツ日本研究所) の「島 は残されている道をこの目で見た。)講義に参加した。 十三時に三宅島大 新澪池の水蒸気爆発で出来た跡 |宅島をガイド付きでまわるのは初 は十六日行われたスザンネ・ク 新島の表面まで見渡せた。式

祝

あしたばん

三十号記念によせて

めてで、私にとってはどれも新鮮だが、 番印象的だったのは島の方の教えて る ざ

■記念すべき第三十号、 こいます。 のものでもなくて、 不思議な空間だと思います。 「かわら版」というのは、 誰のものでもあ おめでとうご

[の景色を撮りがちな私にとって島な す。 性が感じられる記事を期待していま ケー 闊 大事です。 達に語ることのできる、 ションの場であり続けることが もっともっと、 書き手の個 加藤文俊 コミュ

とアーティストの目線が私たちと異な

いて読み解いていく時間では研究者

ることを大いに認識した。普段海や、

らではの粒つぶした表面のコンクリー

削られた石柱など、

日常にひっそ

さん

(アーティスト)

の撮った写真に

もらえたら。 として、これからも動き出していって もらえたりするようになった。『あし こう取っていってくれるよ」と言って 出したの?」「ここ置いとくと、けっ たばん』が三宅島のちいさなメディア 一のお願いをするときも、 が刷り上がった時の興奮。 |接渡したときのうれしさ、 三十号まで継続して、思い出すのは (大西 未希) 最初の 商店に設 また

を新たな発見につながるのだろう。 りと存在するモノに目を向けてみるの

(吉田 あんな)

とができて、本当にうれしいです。 ■記念すべき三十号に、記事を書くこ し始めてから、 もうすぐ一年半、 、あっ 発

> 外でもたくさんの人の手にわたるすて たばん』が三宅島ではもちろん、 ますように!三十号おめでとう! きな「ちいさなメディア」であり続け という間でした。これからも、 『あ

たちは、 ばんを持参して商店へ伺ったとき、 機会が段々と増えてきた。特にあした だ島について知らないことばかりの私 言われた言葉が忘れられない。まだま よ。だから多めに置いていって。」と 学やあしたばんについて知ってもらう いう作業を重ねていきたい。 これからも一号ずつ、書いて伝えると 「あっという間になくなっちゃうの 、その自覚を持ち続けながら、 (竹下絢)

初

て島に来てからたくさんの人

i 綾子) 、島の と出会い、 んなの思いを伝えたい、島について深 出会いたい、一緒に話がしたい、み ました。でも、もっとたくさんの人に かぎり、まだまだあしたばんは続きま く知っていきたい。そんな思いがある

島の魅力をたくさん見てき

これからも人と島を大切に。

(長冨 将成

■島の方との会話を通して、三宅島大

紙なら一ヶ月分かもしれないけれど ございます。そして、ありがとうござ コツ書いてきた積み重ねがもう三十枚 よろしくお願いします。 てくださる、三宅島の方々のおかげで れたのは、「あしたばん」を受け入れ にもなると思うと感慨深いです。 います。一号から関わってきて、コツ ■あしたばん三十号発行、おめでとう もあると思います。これからもどうぞ 年三ヶ月かけてここまでつくってこ 新 餇 麻 日刊

『あしたばん』 ·面記事

【第 1 号】 2011 年 6 月 19 日(日)始動、三宅島大学!

初めての三宅島、新たな出会いを求めて(ト地里佳)

【第2号】 2011年6月19日(日)ぐるり一周

現している。これこそ三宅島大学の もが先生、生徒になり得るカタチが 違い、双方向の情報を交わすことで誰 さったのだ。通常の大学授業などとは を受け、建築物関連のこれを教えて下 レストハウス跡に興味を持っていたの

また、その後の大学校舎で行ったス ンネさんと今回特別参加の木村健世

三字阜大学プロジェクトチー/、 リサーチ開始! (小澤廖輔・長冨将成)

【第3号】 2011年6月20日(月)水中スケッチ大会行われる

伊ヶ谷浜で水遊びをする子供たち (新飼麻友・高木静香)

【第4号】 2011年6月21日(火) 二時間/三年間にかける思い

~三宅高校ナインが挑む夏(長冨将成)

[号外] 2011年6月21日(火)あしたばん制作の裏側に迫る(上地里佳)

2011年6月22日(水) たくさんのありがとうを 一三宅島での5日間 (森部綾子)

· 【第6号】 2011 年7月 18日(月) お待たせしました!『あしたばん』(高木静香)

-【第7号】 2011 年7月 25 日(月)まだ見ぬ三宅島を想う「ロック〜わんこの島〜」(仲尾千枝)

【号外】 2011 年 8 月 1 日 (月) 『KAITEKI のかたちとは

─「KAITEKI のかたち」展~アートと技術の化学反応~』(大西未希)

【第8号】 2011年8月8日(月) 富賀神社大祭、始まる(上地里佳)

【第9号】 2011年8月15日(月) 富賀神社大祭での各地区の受け渡し

最終日までを完全レポート! (上地里佳)

【第10号】2011年8月22日(月)三宅島大学、開校日決定!!(大西未希)

【第 11 号】2011 年 8 月 29 日 (月) 火の山からの挑戦状 トライアスロン開催! (上地里佳)

【第12号】2011年9月19日(月)いよいよ、三宅島大学開校!

みんなで、大学に入学しよう― (新飼麻友)

【第 13 号】2011 年 9 月 21 日 (水) "いま" が響き続けるように (吉田あんな)

【第 14 号】2011 年 9 月 22 日 (木) キックオフのあとで、考えた。(加藤文俊)

2011 年 9 月 26 日 (月) 東京都に実家ができました。(上地里佳)

【第 15 号】2011 年 9 月 26 日(月)ポスター完成!

~ご協力ありがとうございました~ (吉田あんな)

-【第 16 号】2011 年 11 月 14 日(月)応援旗にこめられた想い 三宅島大学講座

「応援学:応援旗をつくろう」(上地里佳)

【第 17 号】2011 年 11 月 28 日(月)三宅島大学、十二月講座

--講師より予告-- (飯田達彦)

- 【第 18 号】2011 年 12 月 2 日(金)ポスター完成!!

『ポスターをつくろう』講座(丸本智也)

【第 19 号】2011 年 12 月 5 日 (月) 甘い香りと笑い声につつまれて

~三宅島クッキーをつくろう!~ (水谷晃毅)

【20号特別号】2011年1月31日(火)『あしたばんBOOKs』誕生

慶應義塾大学 加藤文俊研究室フィールドワーク展VIII『栞』(大西未希)

【第 21 号】2012 年 3 月 3 日(土)レディースパワー溢れる!

第二回三宅島レディース・ラン(大西未希)

【第 22 号】2012 年 6 月 22 日 (金) 今年もやります、伝えます!

島の魅力「女将さん」に迫る(長冨将成)

【第 23 号】2012 年 6 月 23 日 (十) 手作り手渡しのかわら版 (吉山大毅)

【第 24 号】2012 年 6 月 24 日 (日) 三宅島は「ジャストサイズ」(新飼麻友)

八月一日より実施(上地里佳)

【第 26 号】2012 年 8 月 9 日(木)三宅島大学を考える手引き

一ガイダンス講座開催―(上地里佳)

【第27号】2012年8月19日(日)キッズリサーチ始まる!

~期間限定の「寺子屋」~ (新飼麻友)

【夏休み特別号】2011 年 8 月 23 日(木)「三宅島のすきなところ」

(キッズリサーチに参加した子どもたちとの共同制作) 【第28号】2012年8月25日(土)子どもたちの力作揃い~発表会を開催~(竹下絢)

【第29号】2012年9月14日(金)キッズリサーチ、一日復活!~九日間をふり返る~(竹下絢)

東京文化発信プロジェクトの東京アー トポイント計画事業として実施されます 【第25号】2012年7月31日(火)築穴パン屋の『つぶやき便』?!

一宅島大学は、